



## 聾学校教職員の手話活用能力を高めるためには

### 【研究を行った背景】

近年、聾学校においては多様なコミュニケーション手段の活用が進みつつあり、その中でも特に聾学校教職員の手話の活用能力の育成が大きな課題となってきました。聾学校教職員の手話活用能力を高めるにはどのような手だてが必要なのか、また取り組みを進めるにはどのような課題があるのか、そして手話活用能力は授業にどのように生かすことが出来るのか。このような具体的な問いかけに対して、当研究所でも聾学校や手話を活用する聴覚障害者の方々、そして手話通訳の向上にかかわる機関の方々等と一緒に取り組む必要を感じ、本研究をスタートしました。

### 【研究結果】

当研究が開始されると同時に発表された聾学校長会の報告書は私たちに教職員の手話活用に関する基本的な情報を提供してくれました。平成15年末の段階で全国の聾学校の83%が手話研修を行っており、授業で手話を活用している教員は53%程度であるといったものでした。また学校によって聴覚障害教員や聴覚障害保護者の割合が大きく異なることも結果の特徴の一つでした。私たちはこれらを踏まえ、聾学校教職員に必要な手話活用能力を考え、また様々な工夫を行う聾学校の取り組みを紹介することにいたしました。

それらの結果をまとめると以下ようになります。

#### 1) 聾学校教職員の手話活用能力の構造について

聾学校教職員は手話通訳者もつ専門性とは異なり、児童理解・教科指導・教室集団に対する学習支援等の力と融合した手話活用能力が求められることが明らかになりました。

#### 2) 手話研修の質を向上させるための様々な工夫について

- ① 学校全体での取り組み（教員対象のみではなく、保護者・寄宿舍・厨房等の関係者を含めた手話研修）
- ② 指導等につながるフィードバック・評価（具体的な改善点の指摘やサポート）
- ③ 外部機関との連携（聴覚障害者団体や聴覚障害者情報提供施設等との連携）

#### 3) 授業での手話の活用

- ① 目的に添った手話の使い分け（内容理解や日本語表記の確認等の目的に添った活用）
- ② 教科の専門用語に対応した手話単語の開発と活用
- ③ 手話DVDなど、教科学習を支える教材の開発

### 【研究結果からの提言】

これらの研究の結果からは、聾学校教職員の手話活用能力を高めるために必要とされることがあらためて提起されました。

- ① コミュニケーション手段の課題は授業のみならず学校生活、ひいては家庭や地域での生活を含む基本的な課題であるため、学校全体として取り組み、保護者や地域の聴覚障害者等と連携した取り組みが望まれること。
- ② 現在手話をいくつかの種類に分けて論じることがあるが、教育の中では目的に応じて使用することが望まれ、同時に手話を含む視覚的情報提示全体に対する配慮が不可欠であることが確認された。
- ③ 今後教科に対応した手話表現の開発や手話関連教材の充実等が期待されることがあらためて確認された。

### 【研究結果の効果・効用】

本研究ではこれまで漠然と議論されていた聾学校教職員の手話活用能力が手話通訳者の専門性等と異なることを述べ、今後の手話研修の方向性や内容について指針を与えたと考えます。また報告書で紹介した様々な聾学校での工夫は、一つの正解があるのではなく条件に合わせて計画を立てる必要性を示し、そのための参考となる多くの具体的な取り組みを提示できたと考えます。

## 【研究結果の活用】

教職員の手話活用能力向上や授業等での手話活用を考えつつ、以下のような課題を抱えている学校には本研究の報告書が答えにつながる情報を提供できると考えます。

### ① 学校の中でのコミュニケーション手段に関する議論の進め方

本報告書では学内委員会の立ち上げから論を進める例や県のプロジェクトとして検討を開始する例などが解説されています。これらの多様な進め方から自校の状況にあったプロセスを考えていただければ幸いです。

### ② 学外の機関との連携について

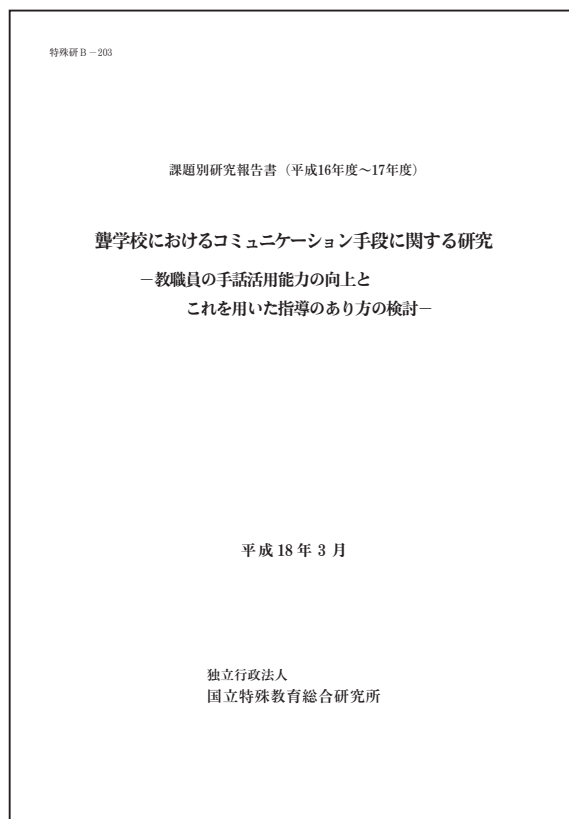
本報告書では聴覚障害者団体や聴覚障害者情報提供施設等の機関との連携の例が解説されています。これらの例から自校の近隣にあるリソースの活用について考えていただければ幸いです。

### ③ 目的にあった手話の使用法

本報告書では日本語に対応した手指表現や日本手話等を、指導内容・目的に添って使い分ける例が解説されています。これらの例は授業の組み立てに参考になるでしょう。

### ④ 教科指導のための手話活用

児童生徒が理解しやすい手話表現や手話単語の開発について本報告書では解説しています。これらは日々の授業での手話活用に参考になるでしょう。



## 【関連情報】

### 参考文献

全国聾学校長会編集委員会 2004  
聴覚障害教育の現状と課題1  
全国聾学校長会

「学校の手話」作成委員会 2005  
学校の手話シリーズ3 理科の手話 用例集  
聾教育の明日を考える連絡協議会

本リーフレットは、研究所で行った次の研究を基に作成しています。

### 【研究課題名】

聾学校におけるコミュニケーション手段に関する研究—教職員の手話活用能力の向上と、これを用いた指導の在り方の検討—  
(平成16年度～平成17年度)

### 【研究代表者／問い合わせ先】

研究代表者：小田侯朗  
(メールアドレス oda@nise.go.jp)

独立行政法人国立特殊教育総合研究所 (National Institute of Special Education; NISE)

〒239-8585 横須賀市野比 5-1-1 TEL: 046-839-6890 URL: <http://www.nise.go.jp/>